

令和 5 年度  
商議員会 議 案 書

令和 6 年 2 月 19 日（月） 13 : 30 ~ 14 : 50

Zoom によるオンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society  
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

## 目 次

1. 令和5年度の事業報告	3
まえばん	
1) 総会・商議員会・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 新潟市との災害協定の締結について	
2. 常設委員会活動報告	12
まえばん	
1) 表彰委員会	
2) ユースネットワーク委員会	
3) R6 能登半島地震災害調査団中間報告	
3. 令和5年度決算中間報告	16
4. 令和6年度の事業計画	17
まえばん	
1) 総会・商議員・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 液状化しやすさマップ更新委員会（仮称）の設立について	
4) 令和6年度役員案	
5. 令和6年度の予算と特定資産の創出について	21
6. その他	22

第8回国際地震地盤工学会議について

# 1. 令和5年度の事業報告

## まえぶん

### 1. 公益出版事業〔公1〕

「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行った。

### 2. 調査・研究事業〔公2〕

若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキアム、実務者報告会、現場見学会など実施した。イベントの開催形式については、支部や地域の人的交流を促進する観点と参加機会増加による会員サービス向上の観点から、可能な範囲で対面形式とオンライン形式の並立をはかった。

### 3. 技術推進事業〔公3〕

技術推進事業はセミナー、現場技術者のための講習会や富山県との災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催した。昨年に引き続き、大学の先生による土質力学講座をシリーズ形式で実施した。建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

### 4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、優れた活動・業績を表彰する。

## 1) 総会、商議員会、幹事会の開催

### (1) 第 63 回定例総会

日 時：令和 5 年 4 月 26 日(水)13:30～14:50

形 式：技術士センタービルでの対面と Zoom によるオンラインのハイブリッド

対面参加 44 名、オンライン参加 54 名、委任状 12 名 計 110 名

### (2) 商議員会

日 時：令和 6 年 2 月 19 日(月)13:30～14:55(本日)

形 式：Zoom によるオンライン形式

商議員参加者： 名 委任状 名 計 名

### (3) 新潟地区幹事会 (WG3 若手ネットワーク活動について)

日 時：令和 5 年 8 月 10 日 (木) 15:00～

形 式：株式会社興和 10 階 会議室

参加者： 幹事 7 名 若手技術者 16 名

### (4) 石川地区幹事会

日 時：令和 5 年 6 月 1 日(木)18:00～

場 所：石川四高記念文化交流館 多目的利用室 2

参加者： 12 名

### (5) 富山地区幹事会

日 時：令和 5 年 5 月 12 日(金)15:00～

場 所：富山駅前 CiC ビル 5 階大学コンソーシアム富山 研修室 2

参加者：14 名

## 2) 研究発表会・シンポジウム・講習会・現場見学会等の開催

### (1) 総会時の特別講演会

日 時：令和 5 年 4 月 26 日(水)15:00～17:30

形 式：技術士センタービル&ZOOM によるオンライン

題目：「大河津分水路事業における技術的取組み (仮題)」

講師：若杉 匠 氏 国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 計画課課長

題目：「高速道路における土工構造物の変状事例と地すべり対策について」

講師：横田 聖哉 氏 東日本高速道路(株) 技術本部 シニアエキスパート

参加人数 76 名

(2) 実務者報告会とやま

日 時：令和5年5月26日（金）13:10～17:55

形 式：NIX ホールでの対面&ZOOMによるオンライン

題目：砂防堰堤が地すべりを誘発！その調査は？

講師：香川 真 共栄興業（株）

題目：斜面对策で意外に怖い富山県西部の堆積軟岩

講師：杉山茂久 三和ボーリング（株）

題目：「耐震補強設計における橋台背面の仮設計画」

講師：古野 昌吾（株）新日本コンサルタント

題目：急こう配の長大泥岩のり面の調査・設計・施工

講師：西本俊晴 JGS 事務局

題目：海岸侵食による下水道吐口施設の被災とその対策

講師：荒井 秀和（株）新日本コンサルタント

題目：宇奈月ダムにおける連携排砂時に機能する第二網場設置計画

講師：蓮池 康明（株）新日本コンサルタント

題目：利賀ダム工事での安全管理と生産性向上について

講師：高橋哲平 竹沢建設（株）

題目：営業線近接での鋼管杭圧入施工及び硬質地盤での圧入不能トラブルへの対応

講師：川田圭介 佐藤工業（株）北陸支店

題目：崩壊法面における鋼管杭の施工及び新技術の活用について

講師：宝田 治樹（株）岡部

参加人数 70 名

(3) 利賀ダム工事現場見学会

日 時：令和5年6月29日（木）13:00～17:30

形 式：バスを使っての現地見学

場 所：富山県利賀ダム工事現場

参加者 40 名

(4) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和5年7月19日（水）13:30～16:40

形 式：ZOOMによるオンラインとNIX ホールでの対面形式

題目：高速道路における最近のり面災害と対策の動向

講師：横田 聖哉 氏

東日本高速道路株式会社 技術本部 シニアエキスパート

土木学会フェロー 博士(工学) 技術士(建設部門)

題目：デジタルツインによる防災対策の最前線

講師：飯塚 敦 教授

神戸大学 都市安全研究センター&工学研究科市民工学専攻

参加者 県関係 29名 学会関係 133名 合計 162名

(5) 第 86 回土質工学最新情報コロキウム

日時：令和 5 年 9 月 15 日 (金) 13:30~16:45

場所：NiX JAPAN (株) 1F ホール

題目：活断層調査の最新事例

講師：立石 良 先生

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 准教授

題目：頻発する能登半島の地震活動について

講師：竹内 章 先生

富山大学 名誉教授

参加者 26名

(6) 「七尾大田火力発電所 灰処分場造成工事 および能越自動車道七尾 IC 改良工事」

現場見学会

日時：令和 5 年 9 月 29 日 (金) 13:30~17:00

形式：バスを使得の現地見学

場所：七尾大田発電所および能越自動車道七尾 IC 工事現場

参加者 15名

(7) R5 土質力学講座 第 1 回

日時：令和 5 年 10 月 12 日 (木) 16:00~17:30

形式：Zoom によるオンライン形式

題目：【圧密と観測的沈下予測】

有効応力と圧密理論の構成、適用限界を理解する。観測的沈下予測の重要性についても講述する。

講師：大塚悟 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 63名

(8) 第 18 回 地盤調査法講習会

日 時：令和 5 年 10 月 13 日（金） 13:00～15:10

場 所：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所 敷地内

講習内容：

- (1) 原位置試験（ボーリングコア説明，サウンディングの講義と実技）
- (2) 室内土質試験（土質試験の講義と実技）
- (3) 物理探査（地中レーダ探査，磁気探査の講義と実技）

参加者 34 名

(9) 第 87 回土質工学最新情報コロキウム

日 時：令和 5 年 10 月 27 日（金） 13:30～16:45

場 所：金沢勤労者プラザ

題 目：盛土規制法の施行について

講 師：小富士 貴 氏

国土交通省都市安全課 都市安全推進官

題 目：盛土規制の技術的ポイント

講 師：若井 明彦

群馬大学大学院 理工学教授

参加者 61 名

(10) R5 土質力学講座 第 2 回

日 時：令和 5 年 11 月 13 日（月） 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【せん断】

土のせん断挙動について、砂と粘土を比較しながら説明する。応用問題（土圧、斜面安定、支持力）における強度定数  $c$ 、 $\phi$  の取り扱いのみならず、排水条件によりせん断強度が大きく変化する理由について理解を深める。

講 師：豊田 浩史 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 43 名

(11) 現場技術者のための土質力学：第 10 回

日 時：令和 5 年 11 月 17 日（金） 13:30～16:45

場 所：金沢大学サテライト・プラザ

題 目：有効応力の原理による土のせん断強度の考え方

講 師：熊 曦 先生

金沢大学理工研究域 地球社会基盤学系 助教

題 目：分割法による複数の斜面安定解析とその適切な利用について

講 師：高原 利幸 先生

金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授

参加者 15名

(12) 第 3 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

日 時：令和 5 年 12 月 8 日(金) 13:00～16:15

形 式：Zoom によるオンライン形式

プログラム

・研究発表 (13 時 05 分～15 時)

学生による研究話題提供 発表時間 9 分以内、質疑 4 分

ブレイクアウトルーム利用による複数会場

・学生交流会 (15 時 10 分～16 時 10 分)

学生のみ参加可能 ブレイクアウトルーム利用による 4～5 名程度のグループ懇談

・優秀発表者賞表彰式 (16 時 10 分～16 時 15 分)

参加者 48名

(13) 特別講演会：新潟地区

日 時：令和 5 年 12 月 11 日 (木) 15:00～16:30

場 所：技術士センタービル

題 目：「地盤構造物の調査・設計法再考ー地盤工学と応用地質学の協働を進めるためにー」

講 師：栗原 則夫 氏

参加者 59名

(14) 令和 6 年能登半島地震被害の速報会(本日)

日 時：令和 6 年 2 月 19 日(月)15:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

調査団長の挨拶 令和 6 年能登半島地震被害調査団 団長

小林 俊一 先生 金沢大学

新潟県の被害状況 全体像 柏崎市の液状化被害 豊田 浩史 先生 長岡技術科学大学

新潟市西区青山-寺尾-小針-内野地区の液状化被害 保坂 吉則 先生 新潟大

新潟市西区善久地区およびその他の液状化被害坂東 和郎 様 (株) 興和

富山県の被害状況 被害概要 古谷 元 先生 富山県立大学

伏木, 新湊, 氷見の液状化災害 兵動 太一 先生 富山県立大学



小矢部市西山 R359 道路崩壊, 小矢部市石動 R491 ボックスカルバートの液状化災害, 同石動小学校グラウンドの盛土の変状 竜田 尚希 先生 富山大学  
富山市蓮町の液状化災害 村尾 英彦様 (株) 村尾地研  
石川県の被害状況 被害概要 新保 泰輝 先生 石川工業高等専門学校  
地質+地震動 高原 利幸 先生 金沢工業大学  
ライフライン関連 宮島 昌克 先生 ライフライン防災総研  
大谷トンネルの崩壊 上田 信二 真柄建設 (株)  
参加者 名

(15) R5 土質力学講座 第5回 (予定)

日時: 令和6年2月22日(木) 16:00~17:30

形式: Zoomによるオンライン形式

題目: 斜面の安全性

講師: 新保 泰輝 先生

石川工業高等専門学校 准教授

参加者 名

(16) R5 土質力学講座 第4回 (予定)

日時: 令和6年3月14日(水) 16:00~17:30

形式: Zoomによるオンライン形式

題目: 土圧

講師: 竜田 尚希 先生

富山大学 助教

参加者 名

### 3) 新潟市との災害協定の締結について

今回の能登半島地震による新潟市内の液状化被害について、新潟市は液状化対策検討方針を打ち出したく地盤系の学識経験者からアドバイスをいただきたいとの意向があり、災害協定を締結する運びとなりました。（佐藤副支部長）

#### 協定文書

災害時における調査の相互協力に関する協定書

(趣旨)

第1条 この協定は、新潟市と公益社団法人地盤工学会北陸支部が、地盤災害発生時に高度な専門性が必要な場合の調査及び地域の防災力向上に関する相互協力の方法を定めるものとする。

(協力の内容)

第2条 新潟市（以下「甲」という。）は、地盤災害が発生し必要と認めるときは、公益社団法人地盤工学会北陸支部（以下「乙」という。）に調査等の実施を要請することができるものとする。

2 乙は、前項に定める要請があったときは、学術的領域の専門調査が必要かどうかを検討し、調査の実施の可否を回答するとともに、調査の実施が可能なときは、速やかに被災状況を調査し、甲へ報告するものとする。

3 乙は、地盤災害が発生し、自らが被災状況調査する必要があると認めるときは、甲に被災状況調査に関する協力を要請することができるものとする。

4 甲は、前項に定める要請があったときは、支部の実施する調査に可能な限り協力するものとする。

5 乙は、調査に基づく対策等の検討に際して、甲が学術的知見を求めたときは、可能な限り協力するものとする。

6 甲と乙は、双方協力し、安心に繋がる市民への情報や知見の提供に努めるものとする。

(連絡体制)

第3条 甲と乙は、毎年4月1日までに、第2条に定める調査等に関する連絡担当者を決定し、速やかに必要な情報を相互に報告し、この者を窓口として要請等のやりとりを行うものとする。翌年3月31日までの間において、連絡担当者等の変更が生じた場合も同様とする。

(調査要請の手続き)

第4条 甲は、乙に第2条第1項に定める調査の要請を行うにあたっては、あらかじめ次の事項を文章により通知する。ただし、緊急の場合は電話等によることができる。この場合には、事後において速やかに文章を送付するものとする。

(1) 調査の場所

(2) 被害の状況

(3) 調査の内容

(4) その他必要な事項

(費用の負担)

第5条 第2条第1項に基づき乙が実施する調査等において、調査費用が伴う場合には、甲は乙に対してその費用を支払うものとする。

2 第2条第3項に基づき乙が実施する調査の費用は乙の負担とする。

(有効期間)

第6条 この協定の有効期間は、協定の日から令和7年3月31日までとする。ただし、有効期間満了の1か月前までに、甲又は乙のどちらからも申出がないときは、1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第7条 この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じた場合は、その都度、甲と乙が協議して決めるものとする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙押印の上、各自その1通を所持する。

令和 年 月 日

甲 新潟県新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1

新潟県市長 中原 八一

乙 新潟市中央区新光町 10 番地 3 技術士センタービルⅡ7F

公益社団法人地盤工学会北陸支部

支部長 信太啓貴

## 2. 常設委員会活動報告

### 1) 表彰委員会

委員会の開催：

令和5年12月27日（水） 13:30～14:30

第1回表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、黒坂、村尾、森影、高原

令和6年1月31日（水）13:00～14:00

第2回事前表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、黒坂、村尾、森影、高原

### 2. 審議内容

第1回表彰委員会時点で、技術部門1件、研究・論文部門1件、功績部門2件の推薦がなされていたが、第2会の時点で研究・論文部門に新たに1件追加された。

最終的に技術部門は富山河川国道事務所「庄川災害復旧工事における地下水位への取り組み」、研究・論文部門は新潟応用地質研究会・平野地盤研究グループの「新潟県越後平野中央部地盤解析報告書」、富山県立大学の兵動太一氏の「Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu”」、功績部門として、柴田聡氏および佐渡正氏が推薦され審議を行った。

また、功績部門の推薦基準について、よりわかりやすい目安を設けることで、授与漏れが起こらない方法を検討した。

### 3. 審議結果

#### (i) 技術部門

①候補者：富山河川国道事務所

対象技術：庄川災害復旧工事における地下水位への取り組みについて

推薦理由：

2021年8月豪雨によって被災した現場の大規模な災害復旧工事において、周辺の地下水位低下に配慮しながら工事を完成させるために実施した取り組みが推薦対象である。

河岸欠壊、堤防護岸損傷及び河岸保護ブロック流出の被災を受けた箇所に対する対策工事の際に、モニタリングのために、周辺住民の理解を得た上で既設の6つの使用していない井戸を借り、新規7本の観測井を公用地に設置し、リアルタイムのモニタリングを可能とするなど、これまでになく取り組みを行っている。

今後の同様な事例に対して参考になることに加えて、地域住民の理解を得るために実施した事等も書かれており、多くの技術者にとって参考になる事例で、報告書の掲載もなされていることから、「技術賞」に値するとの見解で一致した。

#### (ii) 論文・研究部門

①候補者：新潟応用地質研究会・平野地盤研究グループ

対象論文：

令和 2～4 年度 新潟応用地質研究会グループ研究助成事業 成果報告「新潟県越後平野中央部地盤解析報告書」

推薦理由：

純粋な地質学的な解釈ではなく、土木工事を念頭に解析されたもので、地学の素養が少ない土木技術者であったも十分に内容が理解でき、かつ非常に有用な取り纏めがなされており、優れた研究報告に該当し、表彰に値する。すでに、34 以上の機関・個人に 340 部が配布されており、今後合計で 500 部ほど配布される予定であることから、十分に公開されたものであると判断できるため、「論文賞」として推薦することで一致した。

②候補者：兵藤太一

対象論文：Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu”

推薦理由：令和 6 年能登半島地震でも埋立地の液状化が注目されており、細粒分を多く含む場合でも液状化を起こすことが確認されている。火山灰質のしらすの再構成試料で非排水三軸試験を行った。膨大な量の実験をおこなっており、インパクトファクターの高い Engineering Geology に掲載されていることから受賞に値すると考えている。また、今回の地震の復興対策でも成果の利用が期待され、「研究奨励賞」として推薦することで一致した。

(iii)功績部門

①候補者：柴田聡氏

推薦理由：

柴田聡氏の地盤工学会北陸支部内での主な経歴は下記の通り。

2008 年～2009 年 評議員

2012 年～2013 年度 支部長（富山県土木部長）

学会活動に支部長として寄与されており、「功績賞」として推薦することで一致した。

②候補者：佐渡正氏

推薦理由：

佐渡正氏の地盤工学会北陸支部内での主な経歴は下記の通り。

2004 年～2009 年 幹事

2010 年～2011 年 評議員

2012 年～2013 年 副支部長

2014 年～2015 年 評議員

学会活動に長年寄与されており、「功績賞」として推薦することで一致した。

(iv)内規の変更について

現在の功績部門の内規は下記の通り。

(4) 功績部門：

功績賞 表彰基準：① 地盤工学会北陸支部の活動に永年従事し学会の進歩，発展，運営に顕著な貢献をしたと認められる業績

② 地盤工学会関係技術者の育成及び技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績

③ 地盤工学会の広報ならびに社会地位向上に貢献をしたと認められる業績

これまで、支部長，副支部長経験者にはリタイア時に表彰する慣例があったが、「リタイア時」の定義が難しいため，表彰漏れが生じていた。このため，下記の注記をつけることを提案する。

・功績部門では，各地区の副支部長以上経験者が 65 歳になった時点で受賞を打診することを原則とする。

・表彰委員会では独自に役員名簿を管理し，特に年齢（生年月日）を含めたデータを収集するものとする。

## 2) ユースネットワーク委員会

### 第 3 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会の開催報告

- ・北陸支部ユースネットワーク 第 3 回研究発表会
- ・開催日時：2023 年 12 月 8 日(金) 13:00～16:15
- ・会場：オンライン (Zoom Meeting)
- ・参加人数：48 名

北陸支部ユースネットワーク委員会では、昨年につき、学生を対象とした標記イベントを開催しました。地盤工学に関心のある学生間の地域ネットワークを構築し、各自の研究活動のモチベーションを高めてもらうこと、また支部活動の活性化を促すことを目的として開催しました。

研究発表会に先立ち、小林委員長からは「今後の北陸支部発展のため若手のネットワーク構築と、交流の場として活用してもらいたい」との挨拶がありました。

研究発表会はオンライン (Zoom Meeting)にて開催しました。前半は発表者を学生に限定した研究発表会を実施し、6セッションで計 35 件の研究発表がありました。そのうち、7 件を優秀発表賞として表彰しました。

後半は学生の交流行事として、ブレイクアウトルームにて少人数グループのフリートークを実施しました。

### 3) 令和6年能登半島地震被害調査団の報告

令和6年1月1日16時10分、能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、北陸地域一円に地震、津波、火災による被害が発生した。

とりわけ奥能登地域では道路インフラに甚大な被害が発生し、1か月が経過した今でも復旧活動に大きな支障がでている。

この大災害を受け、地盤工学会北陸支部では災害連絡会議と密接な情報交換を行い、1月3日に令和6年能登半島地震災害調査団（団長 金沢大学准教授 小林俊一）を組織した。

当初、国・石川県による奥能登地域への立ち入り自粛要請を受け、奥能登を除く北陸地域での情報収集と調査活動を開始した。

その後、災害規模の大きさに鑑み、2月1日からは地盤工学会本部の組織として活動を行っている。

幹事団および各部門と主査は以下の通りである。

#### 【幹事団】

団長：小林俊一（金沢大学）、副団長：大塚悟（長岡技術科学大学）、副会長：古谷元（富山県立大学）、幹事長：新保泰輝（石川工業高等専門学校）

#### 【主査】

地盤振動：後藤浩之（京都大学）

災害レジリエンス・斜面災害：酒井直樹（防災科学技術研究所）

液状化・側方流動：豊田浩史（長岡技術科学大学）

盛土・擁壁・補強土：宮田喜壽（防衛大学校）

津波・地盤の相互作用：渡邊健治（東京大学）

港湾・空港：渡部要一（北海道大学）

宅地：橋本隆雄（国土館大学）

基礎構造物：西岡英俊（中央大学）

ライフライン：庄司 学（筑波大学）

[https://www.jiban.or.jp/?page\\_id=21412](https://www.jiban.or.jp/?page_id=21412)

### 3. 令和5年度決算中間報告(※支部預り金(概算)を計上して表記している)

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで	5年度予算	5年12月31日実績	6年3月末見込
(1) 経常収益			
① 事業収益	<b>770,000</b>	<b>703,500</b>	<b>817,802</b>
公益出版事業収益(公1)	(20,000)	(0)	(0)
印刷物配布収益	20,000	0	0
調査研究・基準事業収益(公2)	(550,000)	(309,000)	(355,000)
講演会等収益	300,000	162,000	208,000
見学会等収益	150,000	147,000	147,000
研究会等収益	100,000	0	0
技術推進事業収益(公3)	(200,000)	(393,500)	(393,500)
報告会収益	100,000	0	0
講習会収益	100,000	393,500	393,500
② 雑収益	<b>1,000</b>	<b>2</b>	<b>2</b>
受取利息	1,000	2	2
③ 雑収益		<b>69,300</b>	<b>69,300</b>
課税		69,300	69,300
④ 他会計からの繰入額	<b>2,500,000</b>	<b>2,500,000</b>	<b>2,500,000</b>
本部交付金	2,500,000	2,500,000	2,500,000
経常収益計	<b>3,271,000</b>	<b>3,271,802</b>	<b>3,317,802</b>
(2) 経常費用			
① 事業費	<b>1,135,000</b>	<b>1,062,480</b>	<b>1,095,480</b>
調査研究・基準事業費(公2)	<b>(635,000)</b>	<b>(585,658)</b>	<b>(585,658)</b>
講演会費	235,000	312,698	312,698
見学会費	150,000	184,490	184,490
研究会費	<b>250,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
ジオテクフォーラム・セミナー	100,000	0	0
土質力学講座	50,000	0	0
北陸支部防災会議	50,000		0
ユースネットワーク研究会	50,000		0
若手研究会		88,470	88,470
技術推進事業費(公3)	<b>(400,000)</b>	<b>(370,122)</b>	<b>(403,122)</b>
報告会費	200,000	100,197	100,197
講習会費	200,000	269,925	302,925
表彰委員会関連費(公4)	<b>(100,000)</b>	<b>(106,700)</b>	<b>(106,700)</b>
表彰委員会費	100,000	106,700	106,700
② 管理費	<b>1,960,000</b>	<b>813,891</b>	<b>1,770,000</b>
旅費交通費	150,000	49,840	58,000
通信費	400,000	179,630	280,000
賃借料	70,000	46,530	62,000
消耗什器備品費	50,000	35,519	50,000
印刷製本代費	50,000	0	25,000
会場使用料	20,000	0	0
広告宣伝費	5,000	0	0
商品費	5,000	0	0
支払手数料	20,000	12,320	20,000
雑費	10,000	90,052	95,000
事務局委託費	1,180,000	400,000	1,180,000
経常費用計	<b>3,095,000</b>	<b>1,876,371</b>	<b>2,365,480</b>
当期経常増減額	176,000	1,395,431	952,322
一般正味財産期末残高	8,655,664	<b>10,551,095</b>	<b>9,607,986</b>



## 4. 令和6年度の事業計画

### まえぶん

#### 公益出版事業〔公1〕

令和6年能登半島地震被害調査をもとに「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の改訂を行う。流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。大学の先生方の講師によって実施された「土質力学講座5回シリーズ」の資料を印刷製本することを検討する。

#### 調査・研究事業〔公2〕

北陸支部令和6年能登半島地震被害調査団により災害協定を締結している国土交通省北陸地方整備局、新潟県、石川県、新潟市と相互協力し、被災の調査をおこない公表するイベントを企画する。昨年に引き続き若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施する。

#### 技術推進事業〔公3〕

災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催する。大学の先生らによる土質力学講座をシリーズ形式で実施する。セミナー、現場技術者のための講習会、実務者報告会をなるべく対面で実施し、建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

#### 表彰関連事業〔公4〕

表彰関連事業は支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

### 1) 総会・商議員会・幹事会の開催

第64回定例総会は4月23日（火）に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で金沢市にて開催する。商議員会は令和7年2月下旬に開催する。

幹事会は年度の早い時期に開催し、年度予定を確定する。これまで各地区バラバラに行ってきたが、新保新幹事長もとで一括して開催する。

## 2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区においてはイベント開催日時の平準化をこころがける。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会、商議員会時）	全県
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	第 88 回土質工学最新情報コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	新潟
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	第 89 回土質工学最新情報コロキウム	富山
16	ユースネットワーク研究発表会	全県
17	土質力学講座	全県

土質工学最新情報コロキウムについては今年度 88-89 回を迎える。とても息の長いイベントになったので地盤工学会本部の企画賞にノミネートする。

## 3) 液状化しやすさマップ更新委員会（仮称）の設立について

液状化しやすさマップの新潟版は 2012 年、富山・石川版は 2013 年に発行され、10 年以上経過し、さらに令和 6 年能登半島地震により、北陸三県は広範囲に液状化が発生した。

そこで各市町村、県から液状化被害があった箇所についての情報を収集して、液状化被害のあったところの危険度を 4（最高レベル）に上げる必要があり、また、写真等を含めて内容を更新する必要がある。（村尾商議員）

支部内に液状化しやすさマップ更新委員会（仮称）と立ちあげ、前回に合同で作業した国土交通省北陸地方整備局と協議に入る予定とする。

※参考 液状化危険度マップ作成趣旨（2012年4月10日）

北陸地方の地震による地盤液状化発生危険度マップの作製・公表と啓発

## 1. 目的

平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震による地盤液状化現象により住宅、道路、河川堤防、港湾施設、ライフライン等広範囲にわたって多大な被害をもたらした。

北陸地方においても、過去に新潟地震（昭和39年）が発生、地盤の液状化によるアパート、人家の転倒や堤防の沈下、液状化による地下水や土砂の噴出による飛行場などの浸水被害が発生した。また、中越地震（平成16年）や中越沖地震（平成19年）においても、同様に、液状化により家屋や堤防等に被害が発生している。

地震国といわれる我が国では、これまで幾度となく地震による甚大な被害が繰り返されている。特に、新潟県中越地方の信濃川中流域では、近年50年足らずの間に震度6弱以上の地震が4回も発生しておりこれからも何年か後には必ず地震が発生する恐れがある。

そこで、過去の新潟地震、中越地震、中越沖地震の液状化発生状況と、その素因となる地形地質等に関する情報を加えて、地域ごとに液状化しやすさマップとして整理し地域のみなさんの安全な生活に役立てていただくためにとりまとめを行い公表する。

また、公表後は地盤工学会と北陸地方整備局が共同で、地域住民に地震による液状化の危険性とその対応策について啓発活動を行う。

## 2. 実施体制

本調査およびとりまとめは、公益社団法人地盤工学会北陸支部と北陸地方整備局の共同検討会により実施する。

地盤工学会検討会メンバー（7名） 北陸地方整備局検討会メンバー（4名）：11名

長岡技術科学大学 大塚教授 企画部 企画調査官 東出氏

長岡技術科学大学 豊田准教授 建政部 都市・住宅整備課長補佐 山岸氏

新潟大学 保坂助教 河川部 地域河川課長 杉本氏

金沢大学 高原助教 道路部 道路管理課長補佐 山田氏

株式会社 キタック 平野吉彦氏

応用地質 株式会社 畠山正則氏

株式会社 村尾地研 村尾英彦氏

事務局は、北陸地方整備局企画課および北陸技術事務所。資料作成は北陸技術事務所が業務委託において行う。

## 3. 調査方法

- ・ 液状化の素因として地形、地質、地盤情報などについて、既存資料から情報を収集し、地域ごとに、液状化発生のしやすい箇所を抽出する。

- ・ 上記で抽出した液状化の素因と新潟地震、中越地震、中越沖地震による過去の液状化発生状況を既存資料よりとりまとめ、地域ごとに液状化しやすさマップを作成する。

#### 4) 令和6年度役員案

主要な役員を下表に示す。商議員、幹事、参与、顧問の名簿は別添資料を参照。

支部長	高原 利幸	金沢工業大学
副支部長	佐藤 豊	(株)キタック
副支部長	古谷 元	富山県立大学
副支部長	小林 俊一	金沢大学理工研究域
幹事長	新保 泰輝	石川工業高等専門学校
副幹事長	金澤 伸一	新潟大学
副幹事長	杉山 茂久	三和ボーリング(株)
副幹事長	玉村 清文	アルスコンサルタンツ(株)
支部監事	高橋 浩之	(株)興和
支部監事	湯川 公靖	北電技術コンサルタント(株)

5) 令和6年度予算と特定資産の創出につきまして（支部預り金（概算）を計上して表記している。）

R6年4月1日からR7年3月31日まで	R5年度予算	R6年度予算案
(1) 経常収益		
① 事業収益	<b>770,000</b>	<b>821,000</b>
公益出版事業収益（公1）	(20,000)	(20,000)
印刷物配布収益	20,000	20,000
調査研究・基準事業収益（公2）	(550,000)	(400,000)
講演会等収益	300,000	200,000
見学会等収益	150,000	100,000
研究会等収益	100,000	100,000
技術推進事業収益（公3）	(200,000)	(400,000)
報告会収益	100,000	100,000
講習会収益	100,000	300,000
② 雑収益	<b>1,000</b>	<b>1,000</b>
受取利息	1,000	1,000
③ 他会計からの繰入額	<b>0</b>	<b>0</b>
本部交付金	2,500,000	2,500,000
経常収益計	<b>3,271,000</b>	<b>3,321,000</b>
(2) 経常費用		
① 事業費	<b>1,135,000</b>	<b>1,240,000</b>
調査研究・基準事業費（公2）	<b>(635,000)</b>	<b>(635,000)</b>
講演会費	235,000	235,000
見学会費	150,000	150,000
研究会費	<b>250,000</b>	<b>250,000</b>
ジオテクフォーラム・セミナー	100,000	50,000
雪割草の会	50,000	0
液状化しやすさマップ委員会費	0	50,000
北陸支部防災会議	50,000	100,000
ユースネットワーク研究会	50,000	50,000
技術推進事業費（公3）	<b>(400,000)</b>	<b>(500,000)</b>
報告会費	200,000	200,000
講習会費	200,000	300,000
表彰委員会関連費（公4）	<b>(100,000)</b>	<b>(105,000)</b>
表彰委員会費	100,000	105,000
② 管理費	<b>1,960,000</b>	<b>2,160,000</b>
旅費交通費	150,000	250,000
通信費	400,000	400,000
賃貸料	70,000	70,000
消耗什器備品費	50,000	50,000
印刷製本代費	50,000	150,000
会場使用料	20,000	20,000
広告宣伝費	5,000	5,000
図書購入費	5,000	5,000
支払手数料	20,000	20,000
雑費	10,000	10,000
事務局委託費	1,180,000	1,180,000
経常費用計	<b>3,095,000</b>	<b>3,400,000</b>
当期経常増減額		<b>79,000</b>
一般正味財産期末残高		9,686,986

特定資産の付け替えにつきまして、遊休財産（期末残高）を減らして、目的を明確にした基金を創出する。

例えば支部創立70周年記念基金など（令和5年度本部支部臨時懇談会の概要説明）

## 6. その他

### 第8回国際地震地盤工学会議について（原副支部長）

2024/02/01 19:20 » 第8回国際地震地盤工学会議 The 8th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering (8ICEGE) 聴...

公益社団法人  
**地盤工学会**

学会概要 入会案内 行事・活動 刊行物 会員ページ お問い合わせ English  
アクセス

検索

#### 第8回国際地震地盤工学会議 The 8th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering (8ICEGE) 聴講受付のご案内

主催：国際地盤工学会TC203（地震地盤工学）  
開催期日：2024年5月7日（火）～10日（金）  
会場：大阪，大阪国際会議場（グランキューブ大阪）  
会議Webサイト：<https://confit.atlas.jp/icege8?lang=en>

#### 聴講受付のご案内

国際地震地盤工学会議（ICEGE）は、国際地盤工学会に設置されている地震地盤工学に関する技術委員会の権威ある公式行事であり、4年に一度の世界最大規模の研究集会です。日本での開催は、第1回会議以来29年振り、2回目の開催となり、2024年5月7日から10日の4日間の日程で大阪市中之島の大阪国際会議場において開催されます。

本会議のテーマは、地震が引き起こす地盤の震動や地すべり、液状化、陥没などの破壊現象をはじめとして、様々なインフラストラクチャーの地震時の安全が対象であり、これらのメカニズムの解明、リスク予測、設計手法や対策工法の開発などの研究発表が行われます。1964年新潟地震や1995年兵庫県南部地震を振り返る特別セッションに加え、トルコ・シリア地震などの最近の地震に関する研究発表も行われます。論文投稿はすでに締め切っておりますが、400件を超える研究発表、20社を超える技術展示など、様々な最新の知見に触れることのできる機会となっています。

2024年1月31日まで、Earlybird早期割引の参加申し込みを受け付けておりますので、ぜひご参加ください。なお、論文投稿者と聴講のみの参加に登録料の差はございませんので、一般の参加者として登録ください。

会議の詳細及び申し込みは下記のウェブサイトにおいて受け付けています。また、Earlybird早期割引終了後も、Regular料金での参加申し込みが可能です。

開催日：2024年5月7日（火）～11日（土）（最終日はテクニカルツアーのみ）  
参加申込期間：早期割引料金2024年1月31日（水）まで。その後、一般料金で申し込み可能  
申込受付：8ICEGEのホームページ(<https://confit.atlas.jp/guide/event/icege8/static/Registration>)にて受付いたします

#### 問合せ先：

Secretariat of the 8th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering  
登録に関する問合せ：[registration8icege@nta.co.jp](mailto:registration8icege@nta.co.jp)  
テクニカルツアーに関する問い合わせ：[ec\\_gakkai@nta.co.jp](mailto:ec_gakkai@nta.co.jp)  
その他：[Info8ICEGE@gmail.com](mailto:Info8ICEGE@gmail.com)

※問い合わせはメールでお願いいたします。

#### 免責事項・プライバシーポリシー

- 免責事項
- プライバシーポリシー

#### アクセス

[JR山手線]  
巣鴨駅 徒歩10分  
[都営地下鉄三田線]  
千石駅（A4番出口）徒歩3分  
詳しくはこちらをご覧ください

#### 公益社団法人 地盤工学会

〒112-0011  
東京都文京区千石4丁目38番2号  
電話：03-3946-8677 総務担当(代表)  
FAX：03-3946-8678(代表)

[https://www.jban.or.jp/?page\\_id=21441](https://www.jban.or.jp/?page_id=21441)

1/2